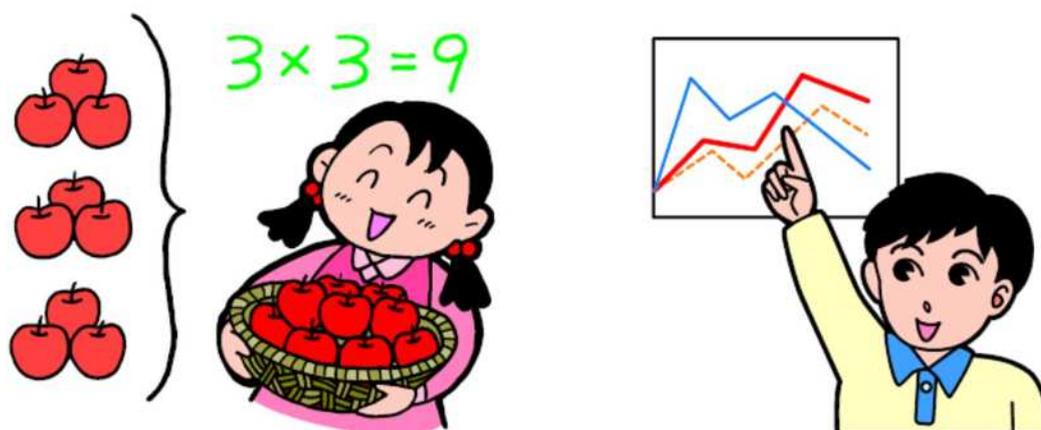


小学校学習指導要領解説 学習評価Q&A 算数科



教
学
一
如

教えることは学ぶことである
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

学習指導要領解説学習評価Q & Aについて

平成29年3月に公示された学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価について、基本的な考え方や小・中学校の教科等別に評価規準の作成のポイントを先生方に分かりやすく解説するためQ & A形式でまとめています。

この学習評価Q & Aは、改訂された学習指導要領に基づき、どんなところが変わったのかをまとめています。

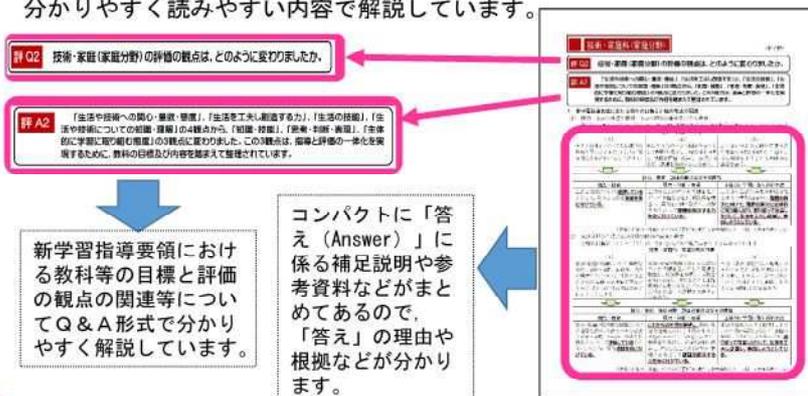


1 大事なポイントを解説

学習指導要領解説を踏まえ、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」に基づいて作成しているので、各教科等の学習評価を行う上で大事なポイントが分かります。

2 Q&A

教科の目標や学年の目標に照らし合わせて評価規準の作成の手順等を図式化し、留意点などワンポイントアドバイスを取り入れるなど、分かりやすく読みやすい内容で解説しています。



3 簡単アプローチ

「指導と評価の一体化」を図り、児童生徒の資質・能力の確実な育成に資するために、日々の授業改善や評価の改善に生かしてください。各教科ごとに必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

目次

| | | |
|-----|-----------------------------------|----|
| 評Q1 | 学習評価の基本的な考え方とはどのようなものですか。…………… | 1 |
| 評Q2 | 算数科の評価の観点は、どのように変わりましたか。…………… | 4 |
| 評Q3 | 算数科の評価規準は、どのように作成すればよいですか。…………… | 8 |
| 評Q4 | 評価をする際、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。…… | 13 |

算数科(共通)

評 Q1 学習評価の基本的な考え方とはどのようなものですか。

評 A1

学習指導要領の目標及び内容が、資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科の評価の観点が、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3観点到に整理され、それに伴い観点別学習状況の評価の考え方も変わりました。

教師が児童生徒の学習状況を的確に捉え、授業改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために「学習評価の在り方」が極めて重要です。

1 学習評価の意義

(1) 学習評価の充実

平成 29 年改訂小中学校学習指導要領総則においては、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と学習の過程や成果を評価する評価の改善を両輪として行っていくことの必要性が明示されました。

(2) カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

「学習評価」は「学習指導」とともに、学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っています。

(4) 学習評価の改善の基本的な方向性

(1)～(3)の学習評価の意義を踏まえ、学習指導要領改訂の趣旨を実現するためには、学習評価の在り方が極めて重要です。学習評価を真に意味のあるものとするために指導と評価の一体化を実現することがますます求められています。

【ポイント】

- 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと



「指導と評価の一体化」を図るためには、児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというPDCAサイクルが大切です。

2 評価の観点の整理

育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえ、観点別学習状況の評価の観点については、小・中学校の各教科等を通じて「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到に整理されました。

[平成 20 年改訂]

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

[平成 29 年改訂]

知識・技能

思考・判断・表現

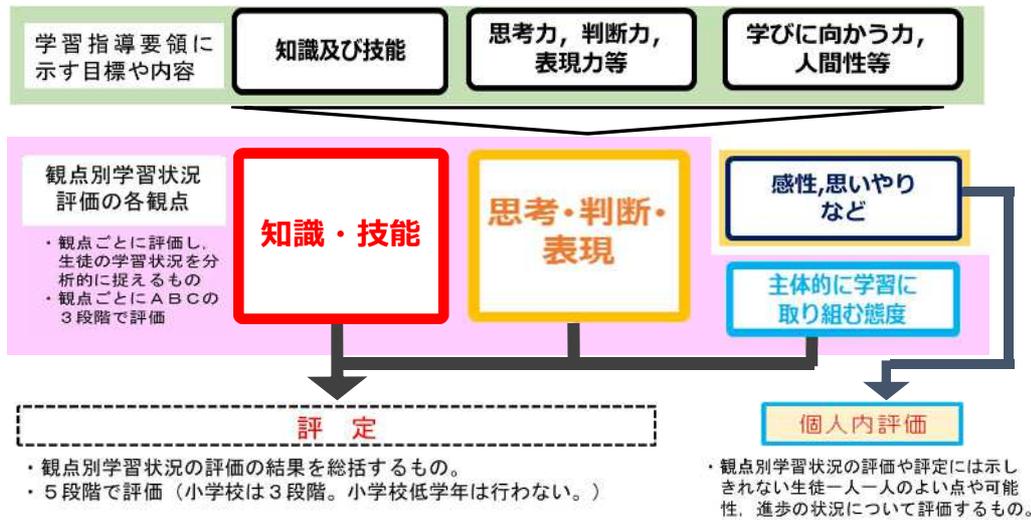
主体的に学習に取り組む態度

【参考】

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。(学校教育法第 30 条第 2 項)

3 各教科における評価の基本構造

2で示した評価の観点の整理も踏まえて各教科における評価の基本構造が以下のように示されています。



（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」p.8を基に作成，以下「学習評価参考資料」と記す。）

4 各教科における観点別学習状況の評価の考え方



上記の「各教科における評価の基本構造」を踏まえた3観点の評価それぞれについての考え方は次のとおりです。なお、この考え方は、外国語活動(小学校)、総合的な学習(探究)の時間、特別活動においても同様です。

「知識・技能」

各教科等の学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価します。それらを既有的の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。

「思考・判断・表現」

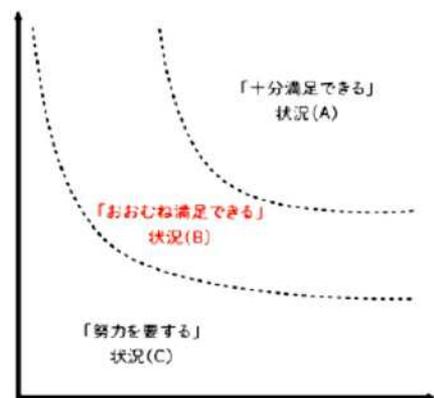
各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、「①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面」と、「②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」という二つの側面から評価することが求められます。

これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられます。例えば、自らの学習を全く調整しようとはせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではありません。

②自らの学習を調整しようとする側面



①粘り強い取組を行おうとする側面

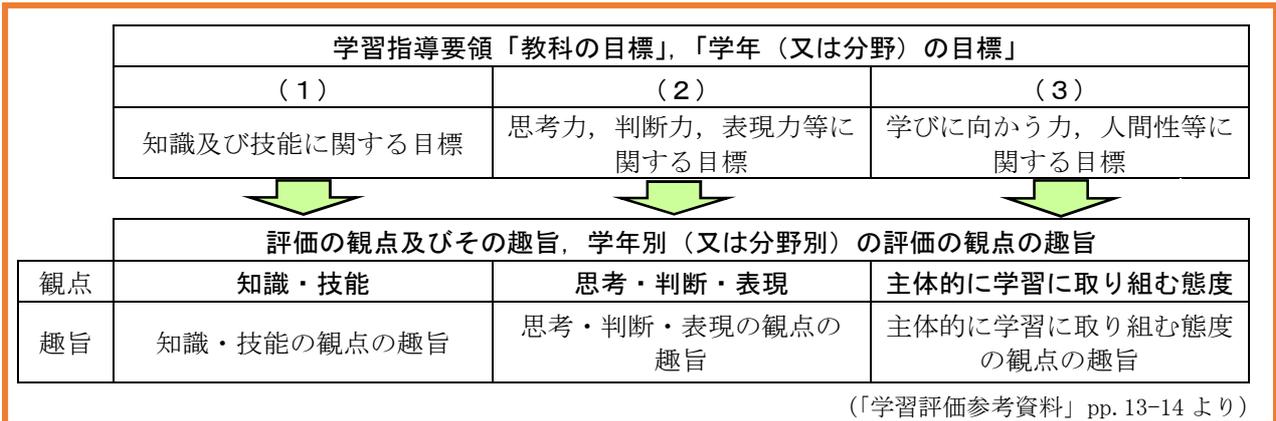
（「学習評価参考資料」p.10を基に作成）

5 各教科における評価規準の作成について

(1) 目標と観点の趣旨との対応関係について

評価規準の作成に当たっては、各学校の実態に応じて目標に準拠した評価を行うために、「評価の観点及びその趣旨」が各教科等の目標を踏まえて作成されていること、また同様に、「学年別（又は分野別）の評価の観点の趣旨」が学年（又は分野）の目標を踏まえて作成されていることを確認する必要があります。

なお、「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、教科等及び学年（又は分野）の目標の（3）に対応するものですが、観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分をその内容として整理し、示していることを確認する必要があります。（詳細は、評Q2参照）



指導と評価の計画を作成し、評価規準に基づいた「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の観点別評価を実施することで、児童生徒の姿が、教科の目標や学年の目標に近付いていくことになります。

(2) 「内容のまとめりごとの評価規準」とは



「内容のまとめり」とは、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたものです。基本的には、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年（又は分野）の目標及び内容」の「2 内容」において、「内容のまとめり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されています。このため、「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となり得るものとなっています。（詳細は、評Q2参照）

(3) 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

各教科における、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順は以下のとおりです。

学習指導要領に示された教科及び学年（又は分野）の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、

- ① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。
- ② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

算 数 科

(小学校)

評Q2 算数科の評価の観点は、どのように変わりましたか。

評A2 「算数への関心・意欲・態度」, 「数学的な考え方」, 「数量や図形についての技能」, 「数量や図形についての知識・理解」の4観点から, 「知識・技能」, 「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に変わりました。指導と評価の一体化を実現することがますます求められており, この3観点は, 教科の目標及び内容を踏まえて整理されています。

1 目標と評価の観点及びその趣旨

各学校の実態に応じて目標に準拠した評価を行うために, 「評価の観点及びその趣旨」が教科の目標を踏まえて作成されていること, また同様に, 「学年別の評価の観点の趣旨」が学年の目標を踏まえて作成されていることを確認することが必要です。

(1) 算数科の目標と評価の観点及びその趣旨との対応関係について

算数科の目標の(1)~(3)と, それぞれ評価の観点及びその趣旨が合うようになっています。

| 算数科の目標 | | |
|--|--|--|
| (1) | (2) | (3) |
| 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに, 日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。 | 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力, 基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統一的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。 | 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき, 学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度, 算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。 |
| ↓ ↓ ↓ | | |
| 評価の観点及びその趣旨 | | |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを<u>理解している</u>。 日常の事象を数理的に処理する<u>技能を身に付けている</u>。 | 日常の事象を数理的に捉え, 見通しをもち筋道を立てて考察する力, 基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統一的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に <u>表したりする力を身に付けている</u> 。 | 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき <u>粘り強く考えたり</u> , 学習を振り返ってよりよく問題解決しようしたり, 算数で学んだことを生活や学習に <u>活用しようとしていたりしている</u> 。 |

(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料) より 下線, 太字は筆者による)

(2) 学年の目標と評価の観点及びその趣旨との対応関係について(例 第6学年)

学年の目標の(1)～(3)と、それぞれ評価の観点及びその趣旨が合うようになっています。

| 第6学年の目標 | | |
|--|---|--|
| (1) | (2) | (3) |
| <p>分数の計算の意味、文字を用いた式、図形の意味、図形の体積、比例、度数分布を表す表などについて理解するとともに、分数の計算をしたり、図形を構成したり、図形の面積や体積を求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。</p> | <p>数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を見いだすとともに、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察する力、身の回りの事象から設定した問題について、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察したりする力を養う。</p> | <p>数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p> |

| 評価の観点及びその趣旨 | | |
|--|---|---|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| <ul style="list-style-type: none"> 分数の計算の意味、文字を用いた式、図形の意味、図形の体積、比例、度数分布を表す表などについて<u>理解している。</u> 分数の計算をしたり、図形を構成したり、図形の面積や体積を求めたり、表やグラフに表したりすることなどについての<u>技能を身に付けている。</u> | <p>数とその表現や計算の意味に着目し、発展的に考察して問題を見いだすとともに、目的に応じて多様な表現方法を用いながら数の表し方や計算の仕方などを考察する力、図形を構成する要素や図形間の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察する力、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察する力、身の回りの事象から設定した問題について、目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して適切な手法を選択して分析を行い、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察したりする力を<u>身に付けている。</u></p> | <p>数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて<u>粘り強く考えたり、</u>数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に<u>活用しようとしていたりしている。</u></p> |

(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料)より 下線、太字は筆者による)

2 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係

(1) 「内容のまとめり」とは

小学校算数科における「内容のまとめり」は、各領域の(1), (2), …それぞれを指します。

〔第1学年〕

- 「A 数と計算」 (1) 数の構成と表し方 (2) 加法, 減法
「B 図形」 (1) 図形についての理解の基礎
「C 測定」 (1) 量と測定についての理解の基礎 (2) 時刻の読み方
「D データの活用」 (1) 絵や図を用いた数量の表現

〔第2学年〕

- 「A 数と計算」 (1) 数の構成と表し方 (2) 加法, 減法 (3) 乗法
「B 図形」 (1) 三角形や四角形などの図形
「C 測定」 (1) 長さやかさの単位と測定 (2) 時間の単位
「D データの活用」 (1) 簡単な表やグラフ

〔第3学年〕

- 「A 数と計算」 (1) 数の表し方 (2) 加法, 減法 (3) 乗法 (4) 除法
(5) 小数の意味と表し方 (6) 分数の意味と表し方 (7) 数量の関係を表す式
(8) そろばん
「B 図形」 (1) 二等辺三角形, 正三角形などの図形
「C 測定」 (1) 長さ, 重さの単位と測定 (2) 時刻と時間
「D データの活用」 (1) 表と棒グラフ

〔第4学年〕

- 「A 数と計算」 (1) 整数の表し方 (2) 概数と四捨五入 (3) 整数の除法
(4) 小数の仕組みとその計算 (5) 同分母の分数の加法, 減法
(6) 数量の関係を表す式 (7) 四則に関して成り立つ性質 (8) そろばん
「B 図形」 (1) 平行四辺形, ひし形, 台形などの平面図形
(2) 立方体, 直方体などの立体図形 (3) ものの位置の表し方
(4) 平面図形の面積 (5) 角の大きさ
「C 変化と関係」 (1) 伴って変わる二つの数量 (2) 簡単な場合についての割合
「D データの活用」 (1) データの分類整理

〔第5学年〕

- 「A 数と計算」 (1) 整数の性質 (2) 整数, 小数の記数法 (3) 小数の乗法, 除法
(4) 分数の意味と表し方 (5) 分数の加法, 減法 (6) 数量の関係を表す式
「B 図形」 (1) 平面図形の性質 (2) 立体図形の性質 (3) 平面図形の面積
(4) 立体図形の体積
「C 変化と関係」 (1) 伴って変わる二つの数量の関係 (2) 異種の二つの量の割合 (3) 割合
「D データの活用」 (1) 円グラフや帯グラフ (2) 測定値の平均

〔第6学年〕

- 「A 数と計算」 (1) 分数の乗法, 除法 (2) 文字を用いた式
「B 図形」 (1) 縮図や拡大図, 対称な図形 (2) 概形とおよその面積 (3) 円の面積
(4) 角柱及び円柱の体積
「C 変化と関係」 (1) 比例 (2) 比
「D データの活用」 (1) データの考察 (2) 起こり得る場合

(2) 「内容のまとめり」と「評価の観点」の例

小学校算数科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係については、下のようになっています。

【例 第6学年「内容B 図形(1)」と「評価の観点」との関係】

B 図形

(1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 縮図や拡大図について理解すること。

(イ) 対称な図形について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりすること。

(小学校学習指導要領(平成29年告示)pp. 87-88)

(下線) . . . 知識及び技能に関する内容

(波線) . . . 思考力、判断力、表現力等に関する内容

算 数 科

(小学校)

評Q3 算数科の評価規準は、どのように作成すればよいですか。

評A3 算数科においては、「内容のまとまりごとの評価規準」から「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を作成し、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を基に「単元の評価規準」を作成します。

算数科における「単元の評価規準」を作成するまでの流れは以下のとおりです。

- 1 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。
- 2 「内容のまとまりごとの評価規準」から「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。
- 3 「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」から「単元の評価規準」を作成する。

1 「内容のまとまりごとの評価規準」の作成手順

学習指導要領に示された算数科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、次のような手順で作成します。

- ① 算数科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認する。(評Q2参照)
- ② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

※ 内容のまとまりごとの評価規準を作成する際の【観点ごとのポイント】

◎「知識・技能」のポイント

- ・基本的に、当該内容のまとまりで育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、育成したい資質・能力に照らして、「知識及び技能」で示された内容を基に、その文末を「～している」「～できる」として、評価規準を作成する。

◎「思考・判断・表現」のポイント

- ・基本的に、当該内容のまとまりで育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、育成したい資質・能力に照らして、「思考力、判断力、表現力等」で示された内容を基に、その文末を「～している」として、評価規準を作成する。

◎「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・当該学年目標の(3)の主体的に学習に取り組む態度の「観定の趣旨」を基に、指導事項を踏まえて、その文末を「～している」として、評価規準を作成する。

2 「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」の作成手順

「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、【観点ごとのポイント】を踏まえ、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

※ 具体的な内容のまとまりごとの評価規準を作成する際の【観点ごとのポイント】

◎「知識・技能」のポイント

小学校学習指導要領の算数科の内容として示された「知識及び技能」の文言は、学年や領域ごとに書き方が揃っていないため、実際に単元において評価するに当たって、指導し評価する事項が明確になるように、具体的な書き方で表現を揃える必要がある。その際、基本的に、当該「内容のまとまり」で育成を目指す資質・能力「知識及び技能」に該当する指導事項について、育成したい資質・能力「知識・技能」に照らして、「小学校学

習指導要領解説算数編」などにおいて示された内容を基に表現を揃え、その文末を「～している」「～できる」として、評価規準を作成する。

◎「思考・判断・表現」のポイント

小学校学習指導要領の算数科の内容として示された「思考力、判断力、表現力等」の文言は、学年や「内容のまとまり」の全体にかかわる内容となるように、抽象度を上げた書き方で示されている。また、「内容のまとまり」ごとに、主に主要な一つに絞って示されている。そこで、実際に単元において評価するに当たって、**指導し評価する事項が明確になるように、具体的な書き方で表現を揃える必要がある。**また、時には「知識・技能」に対応した「思考・判断・表現」の文言も示す必要がある。その際、基本的に、当該「内容のまとまり」で育成を目指す資質・能力「思考力、判断力、表現力等」に該当する指導事項について、育成したい資質・能力「思考力、判断力、表現力等」に照らして、「小学校学習指導要領解説算数編」などにおいて示された内容を基に具体化し、その文末を「～している」として、評価規準を作成する。

◎「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

「主体的に学習に取り組む態度」の「内容のまとまりごとの評価規準」は、当該学年目標の(3)を踏まえて作成した「主体的に学習に取り組む態度」の「観点の趣旨」をもとに、指導事項を踏まえて、その文末を「～している」として、評価規準を作成している。そのため、学年を通して最終的に育成すべき資質・能力がどの「内容のまとまり」においても同じように書かれていて、抽象度を上げた書き方で示されている。また、算数科においては、「内容のまとまり」は、1、2時間で学習が終わるものもあれば、40時間を超えて学習するものもあるなど、指導する際の授業時数が大きく異なることがある。そこで、実際に単元において評価するに当たって、**指導し評価する事項が明確になるように、具体的な書き方で表現を揃えたり、時に追加したりする必要がある。**その際、「小学校学習指導要領解説算数編」などにおいて示された内容を基に、具体的な学習活動や指導事項を踏まえて具体化し、その文末を「～している」として、評価規準を作成する。

3 「単元の評価規準」の作成手順

単元に合わせて、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」をそのまま用いたり、分割したり、組み合わせたりして、単元の評価規準を作成します。

◎「内容のまとまり」をそのまま、「単元」とする場合

(例)・第2学年「C測定」(2)時間の単位 → 単元「時刻と時間」

(例)・第5学年「B図形」(3)平面図形の面積 → 単元「平面図形の面積」

◎「内容のまとまり」をいくつか分割して、「単元」を構成する場合

(例)・第3学年「A数と計算」(4)除法

→ 単元「わり算」、「あまりのあるわり算」、「大きな数のわり算」

(例)・第6学年「B図形」(1)縮図や拡大図、対称な図形

→ 単元「縮図や拡大図」、「対称な図形」

◎「内容のまとまり」を組み合わせて、「単元」とする場合

(例)・第4学年「A数と計算」(6)数量の関係を表す式 (7)四則に関して成り立つ性質

→ 単元「式と計算」

評価規準の作成例 : 第3学年「A 数と計算」 (4) 「除法」

※ 第3学年「除法」は、「わり算」、「余りのあるわり算」、「大きな数のわり算」と三つの単元に分けて学習することが多いので、ここでは三つの単元の評価規準を示している。

○ 「知識・技能」の評価規準作成

〈作成のポイント〉

| | |
|---------------|--|
| 学習指導要領の「2 内容」 | 知識及び技能 |
| | <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。</p> <p>(イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。</p> <p>(ウ) 除法と乗法や減法との関係について理解すること。</p> <p>(エ) 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。</p> <p>(オ) 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。</p> |

学習指導要領の「2 内容」を確認する。

| | |
|-------------------|--|
| 内容のまとめりごとの評価規準(例) | 知識・技能 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。また、余りについて知っている。 ・ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。 ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ・ 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。 |

文末を「～している。」、「～できる。」に代える。

| | |
|-----------------------|--|
| 具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例) | 知識・技能 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ・ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。 ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ・ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。 ・ 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。 |

「内容のまとめりごとの評価規準」を具体化する。

| | |
|------------|---|
| 単元の評価規準(例) | 知識・技能 |
| | <p><単元「わり算」></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ・ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。 ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 <p><単元「余りのあるわり算」></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ・ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。 |

「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」に示されている内容を基に、単元の評価規準を作成する。

| | |
|--|--|
| | <p>いことを知っている。</p> <p><単元「大きな数のわり算」></p> <ul style="list-style-type: none"> ・包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ・簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。 |
|--|--|

○ 「思考・判断・表現」の評価規準作成

〈作成のポイント〉

| | |
|----------------------|---|
| 学習指導要領の「2 内容」 | 思考力、判断力、表現力等 |
| | <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(7) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。</p> <p>(4) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。</p> |

学習指導要領の「2 内容」を確認する。

| | |
|--------------------------|---|
| 内容のまとめりごとの評価規準(例) | 思考・判断・表現 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。 ・数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かしている。 |

文末を「～している。」に代える。

| | |
|------------------------------|---|
| 具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例) | 思考・判断・表現 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図式などを用いて考えている。 ・除法は乗法の逆算と捉え、除法の計算の仕方を考えている。 ・余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。 ・「日常生活の問題」(単なる文章題ではない。情報過多の問題、算数以外の教科の問題)を、除法を活用して解決している。(いろいろな単元が終わった後に日常生活の中から、もしくは他教科等で、除法を適切に用いて問題解決している。) ・簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考えている。 |

「内容のまとめりごとの評価規準」を具体化する。

| | |
|-------------------|--|
| 単元の評価規準(例) | 思考・判断・表現 |
| | <p><単元「わり算」></p> <ul style="list-style-type: none"> ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ・除法は乗法の逆算と捉え、除法の計算の仕方を考えている。 |
| | <p><単元「余りのあるわり算」></p> <ul style="list-style-type: none"> ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ・余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。 |
| | <p><単元「大きな数のわり算」></p> <ul style="list-style-type: none"> ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ・簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考えている。 |

「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」に示されている内容を基に、単元の評価規準を作成する。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準作成

| | |
|-----------------------|---|
| 学習指導要領の「1 各学年の目標」 | 学びに向かう力、人間性等 ※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当学年の目標(3)を参考にする。 |
| 内容のまとめりごとの評価規準(例) | 主体的に学習に取り組む態度 ・除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。 |
| 具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例) | 主体的に学習に取り組む態度 ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ・除法が用いられている場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。(「わり算探し」など) ・自分が考えた除法の計算の仕方について、具体物や図と式とを関連付けて考えようとしている。 |
| 単元の評価規準(例) | 主体的に学習に取り組む態度 <単元「わり算」> ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ・除法が用いられている場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。(「わり算探し」など) <単元「余りのあるわり算」> ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ・除法が用いられている場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。(「わり算探し」など) <単元「大きな数のわり算」> ・自分が考えた除法の計算の仕方について、具体物や図と式とを関連付け、よりよい表現にしていこうとしている。 |

〈作成のポイント〉



指導と評価の一体化に向けて(指導と評価の計画)

観点別学習状況を記録に残す場面等を精選するためには、単元のまとめりの中で適切に評価を実施できるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、計画的に場面や方法等を考えておくことが必要です。算数科においては、単元の中のどの時間を評価を行う機会に位置付け、その授業時間の中のどの場面において評価を行うのかという評価場面の精選と、その評価資料をどのような方法で収集するかという適切な評価方法の選択について十分に考える必要があります。【事例】を参考に指導と評価の一体化に向けて取り組んでみましょう。

【事例】

学習評価に関する事例
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
第3編 第2章 学習評価に関する事例について
【国立教育政策研究所教育課程研究センター】



評Q4 評価をする際、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。

評A4 学習評価については、これまで様々な課題が指摘されてきました。その改善のために、指導と評価の計画を作成し、観点別学習状況評価を計画的に進める必要があります。

また、観点別学習状況評価を総括する際や、総括した評価を評定に総括する際には、校内で十分に共通理解を図り、児童生徒や保護者にも説明できるようにする必要があります。

1 学習評価の進め方について

(1) 学習評価について指摘されてきた課題

学習評価については、以下のような課題が指摘されてきました。



- ・ 評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- ・ 現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるとの誤解がある。
- ・ 評価の方針が教師によって異なり、学習改善につなげにくい。
- ・ 教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない。

教師は、上記のような課題に応えるためにも、児童生徒への学習状況のフィードバックや授業改善に生かすという評価の機能を一層充実させる必要があります。そのためにも、学習評価の進め方に留意し、評価の充実を図ることが必要です。

(2) 評価の進め方及び留意点

単元（題材）における観点別学習状況の評価の進め方及び留意点は、以下のとおりです。

ア 単元（題材）の目標を作成する。 →評Q3に関連

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 児童生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

イ 単元（題材）の評価規準を作成する。 →評Q3に関連

- ※ 単元（題材）の目標及び評価規準の関係性については評Q1参照。

ウ 「指導と評価の計画」を作成する。

- ア、イを踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（児童生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

エ 授業を行い、観点別学習状況の評価を行う。

「指導と評価の計画」に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

オ 観点ごとに総括する。

集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A, B, C）を行う。

2 「指導と評価の計画」の作成例

これまでの指導計画に、観点別学習状況評価を位置付けた「指導と評価の計画」を作成することで、単元（題材）を見通した計画的な指導と評価を行うことができ、その充実にもつなげることができます。「指導と評価の計画」は、教科等の特性を踏まえ、様々な様式で作成することができます。

【パターン1】（中学校数学科 単元名「一次関数（全17時間）」）

| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考 |
|----|--|--------|-----------|--|
| 1 | ・具体的な事象を捉え考察することを通して、問題の解決に必要な二つの変数を取り出し、それらの関係を表や座標平面上に表すことができるようにするとともに、一次関数の定義を理解できるようにする。 | 知 | 知① | 知①：行動観察 |
| 2 | ・いろいろな事象で二つの変数の関係を $y=ax+b$ で表すことを通して、事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを理解できるようにする。 ・小単元1の学習を振り返って、「学びの足跡」シートに分かったことや疑問などを記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。 | 知 態 | 知② 態①③ | 知②：小テスト ※小テストの結果は指導等に生かす。 態①③：「学びの足跡」シート ※小単元2以降の指導等に生かす。 |

【「知識・技能」の評価の方法】
児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなどの実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことが大切です。
例えばペーパーテストにおいて知識の習得を問う問題と、知識の理解を問う問題とのバランスの配慮をする、求められる知識・技能を可視化するような学習カードを作成するなどの工夫改善が考えられます。

【パターン2】（中学校技術・家庭科 題材名「家族・家庭や地域との関わり（全6時間）」）

| 小 題 材 | 時間 | ねらい・学習活動 | 評価規準・評価方法 | | |
|---------------|----|---|---|---|---------------|
| | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 家族や地域の人々との関わり | 1 | ○家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて問題を見だし、課題を設定することができる。 ・自分と家族や地域の人々との関わりを図等に表す。 ・自治会長など地域の人による講話等を通して、家庭生活と地域との関わりについて話し合う。 ・家族や地域の人々との関わりについて問題点を挙げ、課題を設定する。 (問題点の例) ・家族は防災グッズを用意しているが、実際に何が準備されているのかがよく分かっていない。 ・地域は防災訓練を実施し、災害に備えているが、参加していない。高齢者など地域の人々に任せきりになっている。 家族や地域の人々と、どのように関わるとよいのだろうか | ①家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。 ・学習カード | ①家族や地域の人々との関わりについて問題を見だし、課題を設定している。 指導に生かす評価 ・学習カード | |

【「思考・判断・表現」の評価の方法】
児童生徒の発言内容から、問題を見だし、課題を設定できているかを見取る必要があります。
その際には、例えばペーパーテストのみならず、学習カードやワークシートを活用した論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。

【パターン3】（中学校国語科 単元名「枕草子（全3時間）」）

| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
|---|--|-----------------------------------|----------------|
| 1 | ○『枕草子』について、小学校での学習を想起するとともに、映像資料を視聴するなどして概要を理解する。 ○ 第一段を読み、清少納言のものの見方や考え方を知る。 | [知識・技能] ① | ノート |
| 2 | ○ 「うつくしきもの」を読み、清少納言のものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方と比べる。 | [思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ① | ノート 振り返りシート |

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法】
具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。
その際、各教科等の特質に応じて児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、その他の観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」）の状況や、前時までの学習を踏まえた上で評価を行う必要があります。



上記のパターンのように、指導と評価の計画は各教科によって、様々な作成の方法がありますので、各学校の実情や児童生徒の状況に応じて作成し、評価の充実を図ってください。

（学習評価参考資料中学校数学 p. 42, 中学校技術・家庭科 p. 107, 中学校国語 p. 66 から一部抜粋）

3 観点別学習状況の総括について

評価に係る記録の総括と評定への総括については、次のことに留意することが大切です。

- ・ 各学校で、総括の考え方や方法等の協議をして、共通理解を図っておく。
- ・ 様々な評価方法の例を参考にしながら、各学校の実態に応じて、各学校で方法等を決定する。

適切な評価の計画の下に得た、児童生徒の観点別学習状況の評価に係る記録の総括の時期としては、**単元（題材）末、学期末、学年末等**の節目が考えられます。



「学習評価参考資料」には、次のように、総括の方法が例示されていますので、各学校における、観点別評価の総括について、評価方法を検討する際の、参考にしてください。

【例1】単元（題材）における観点別評価の総括の例

評価結果のA, B, Cの数を基に総括する場合

| 学習活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 単元の評価 |
|---------------|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|
| 知識・技能 | A | | | A | B | | B | | A or B |
| 思考・判断・表現 | | | B | | | A | | C | B |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | B | | B | | A | | B | B |

「AABB」のように同数の場合など、総括に迷う場合があるので、あらかじめ総括の仕方を決めておくことが必要ですね。



【例2】単元（題材）における観点別評価の総括の例

評価結果のAを3点, Bを2点, Cを1点にするなど、数値に置き換えて総括する場合

| 学習活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 総括 | 単元の評価 |
|---------------|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|-------|
| 知識・技能 | 3点 | | | 3点 | 2点 | | 3点 | 3点 | 14/15点 | A |
| 思考・判断・表現 | | | 3点 | | | 2点 | | 2点 | 7/9点 | B |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | 2点 | | 2点 | | 3点 | | 1点 | 8/12点 | B |

※ 例えば、総括の結果をBとする範囲を $[2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5]$ とすると、「思考・判断・表現」の平均値は、約 2.3 $[(3 + 2 + 2) \div 3]$ で総括の結果はBとなる。

（「学習評価参考資料」p. 16 - 17 を基に作成）

なお、評価の各節目のうち特定の時点に重きを置いて評価を行う場合など、【例1】、【例2】のような平均値による方法以外にも様々な総括の方法が考えられます。

4 観点別学習状況の評価から評定への総括

観点別学習状況の評価から評定への総括は、各観点の評価結果をA, B, Cの組合せ、又は、A, B, Cを数値で表したものに基づいて総括し、その結果を小学校では3段階、中学校では5段階で表します。

| | |
|-------------|--------------------------------------|
| 中 学 校 | 5 : 「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断できるもの |
| | 4 : 「十分満足できる」状況と判断されるもの |
| | 3 : 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの |
| | 2 : 「努力を要する」状況と判断されるもの |
| | 1 : 「一層努力を要する」状況と判断されるもの |

【例1】観点別学習状況の評価を数値化し、合計値で評定を決める方法

| 観点別評価 | 合計値 | 評定（小学校） | 評定（中学校） |
|------------|-----|---------|---------|
| AAA | 9 | 3 | 5 又は 4 |
| AAB | 8 | | |
| ABB AAC | 7 | 2 | 3 |
| ABC BBB | 6 | | |
| BBC ACC | 5 | | |
| BCC | 4 | 1 | 2 又は 1 |
| CCC | 3 | | |

| A | B | C |
|----|----|----|
| 3点 | 2点 | 1点 |

「評定」と「総括」においても、学校全体で共通理解して進めていくことが大切です。



【例2】観点別学習状況の各観点の評価結果を点数で算出し、評定を割合で算出する方法

| 観点別の達成度 | 8割以上 | 5割から8割 | 5割以下 |
|---------|--------|--------|--------|
| 小学校 | 3 | 2 | 1 |
| 中学校 | 5 又は 4 | 3 | 2 又は 1 |



評価に関する仕組みや評価結果については、保護者の理解を得ることが大切です。児童生徒や保護者に通知表等や保護者会で、丁寧に説明しましょう。説明をして理解を図ることが学習の改善や保護者からの信頼につながります。

5 学習評価の工夫について（チェックポイント例）

(1) 学習評価の妥当性、信頼性を高める工夫について

- 評価について、学校として組織的かつ計画的に取り組んでいる。
- 評価基準や評価方法について、教師同士で検討するなどして明確にしている。
- 評価に関する実践事例を蓄積した上で共有し、評価結果についての検討を通じて力量向上を図っている。
- 児童生徒や保護者に対し、評価に関する仕組みについて事前に説明したり、評価結果について丁寧に説明したりするなど、評価に関する情報を積極的に提供し、児童生徒や保護者の理解を図っている。

(2) 評価時期の工夫について

- 日々の授業で、児童生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置いている。
- 各教科における「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価の記録については、原則として単元や題材などのまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価している。
- 「主体的に学習に取り組む態度」については、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとしているか意思的な側面を評価している。
- 学習指導要領に定められた各教科等の目標や内容の特質に照らして、複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価している。

(3) 学年や学校間の円滑な接続を図る工夫の例

- 「キャリア・パスポート」を活用し、児童生徒の学びをつなげられるようにしている。
- 小学校段階においては、幼児期の教育との接続を意識した「スタート・カリキュラム」を一層充実させている。
- 高等学校段階においては、入学者選抜の方針や選抜方法の組合せ、調査書の利用方法、学力検査の内容等について見直しを図っている。



自校の学習評価の工夫について、チェックポイントを活用して振り返ってみましょう。